

またもや隠蔽体質が明らかに！

社員に事故の情報開示をせよ！

検修日報にも載らない重大事故？

8月22日夕方、東京仕業検査車両所にC42編成が15号車の3次接地故障のため入庫しました。通常ならば、すぐに修繕車両所の社員が調査に入るところですが、またもや社員の立ち入りが禁止となりました。

管理者のみが15号車に乗り込み、なにやら配電盤の写真を撮り、検修課と管理者と主任がこそこそと調査に入りました。

私たちの調査によると、C42編成は本線走行中に15号車の空調故障が発生し、車掌が現地に急行したところ、配電盤の空調NFBがトリップしており、車掌がNFBをONにした途端、NFBから火花が出て焼損したというのです。また、その状況をお客様が見ていたとの情報もあります。

皆さん、8月9日にもC49編成が同様のNFB焼損事故を起こし、お客様に多大な迷惑をかけたニュースを思い出しませんか？

いまだC49編成のNFB焼損の原因は、会社から聞かされていません。車両所の社員にはNFBの一斉点検を実施しただけでした。

相次ぐ焼損事故、お客様に見られたことなどが重なり、会社はまたもや、社員に対しても事故の隠蔽をはかろうとしています。翌日の点呼ではこの焼損事故に対して一切語られませんでした。検修日報にも載っていないのです。これで良いのでしょうか？このような重大事故を明らかにしない会社の姿勢は隠蔽体質そのものです。こんな姿勢で「関係社員に周知している」とでもいうのでしょうか。これで安全が保たれるのでしょうか？

すべての社員に情報開示すべきです。

そのことが安全への近道です。

**相次ぐ配電盤焼損事故！
事故隠蔽で安全は保てない！**